



〈会員の窓 29〉

技術の進歩と生命の進化～想像と創造～

上田 幸伸

淀川愛好会会長澤井先生には、30 年ほど前に、前の勤め先の伊勢屋機械の仕事で、初めてお会いしました。場所は、当時の先生の勤め先の宇治川水理実験所、今の宇治川オープンラボラトリーです。当時は、計測の自動化を、ひとつのテーマとされていたようです。そのお手伝いという雰囲気でした。自動化は、人不足と人件費の削減が目的の場合がありますがこのときは前者です。自動化してその実験中にほかの仕事ができます。生産工場の自動化は人の働く場所を減らします。事務処理の O A (オフィスオートメーション) も同様です。介護も恐らく自動化されると思います。実験室は、L A (ラボラトリーオートメーション) です。機械が作業をすれば、人は何をやるのでしょうか。雑誌にも 20 年後になくなる職業という記事がありました。最近では自動運転の自動車が実用化されつつあります。人は便利さを手放そうとしないでしょう。アメリカでは 18 世紀のままで暮らす人々の町があります。しかし、町でなく国家がとはいかないと思います。

そして澤井先生が摂南大学に移られて淀川愛好会を作られてから、仕事と関係のない話もすることが出てきました。川のことにも好奇心の範囲で、本を読み、熱心ではありませんが、例会に参加させてもらっています。最近といいましても 10 年ぐらい前からですが、人類も恐竜のように終末を迎えるだろうという意見を聞きます。私の勝手な意見ですが、現在の説の一つに、恐竜の破局は 6500 万年前の隕石の衝突によるものとされています。もし隕石が落ちなければ今も恐竜の世界かも知れません。手が使えて、今の人類のように活動できたかどうかは判りませんが、想像の中での恐竜の世界が続いていたと思います。恐竜の世界でも疫病とか地震、津波のような天変地異があったと思います。しかし一億年以上続いています。人はどうでしょうか。地球で、生命がどうして発生したのか知りませんが、遠い祖先の始まりが一つの細胞であれば、今までその命が形を変えて継承されて来たと考えます。またほぼ確かな説では、人の細胞にはほかの生物を取り込んだ部分もあるとのこと。類人猿から今の人類の形になったように、これから先の人類がどうなるか、次の階梯に進むこともあると思います。この話は、回答不明なことですが、澤井先生との議論のテーマの一つです。

話し変わって、淀川愛好会では、河川だけでなしに自然についての好奇心をもってイベントに参加させて貰っています。新しいことが、一つか二つでも知ることができればと思います。

(榊上田メカニク研究所代表)

イベント案内

淀川愛好会・秋のイベント(川の恵みを活かすフォーラムへの参画)

日時：2015年10月3日(土) 10:00～16:30

会場：京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー(詳細は3ページにてご案内します)

イベント報告

近畿水環境交流会 in 宇治川オープンラボラトリー

7月25日(土)・26日(日)に、京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリーにて近畿水環境交流会が開催されました。

1日目は、午前中に伏見港周辺を見学し、午後からはシンポジウムを行い、その後懇親会としてバーベキューを楽しみました。シンポジウムでは、藤田正治氏(京都大学防災研究所流域災害研究センター長)による近年の災害と防止策についての特別講演や澤井健二氏(摂南大学名誉教授)による巨椋池流域模型ビオトープについての報告、参加団体の活動紹介など盛り沢山で、有意義な時間を過ごすことができました。

2日目は、午前中に宇治川の河岸清掃と水面利用を行い、午後から恒例のEボートレースを行いました。Eボートレースは、宇治川が増水して危険であったため研究所内の実験水路でタイムレースとなりましたが、1位と2位の差が1秒と白熱した戦いとなりました。

参加者は2日合わせると200人を超え、例年以上に盛り上がりました。



現地見学の様子



シンポジウムの様子

天若湖アートプロジェクト2015「あかりがつなく記憶」

8月8日(土)・9日(日)に京都府南丹市の日吉ダムにて開催されました。今年度は10周年ということで、日吉町郷土資料館で「天若のお話し」も開催されました。嘉田由紀子実行委員長(前滋賀県知事)が聞き手として、天若集落出身の語り手の方々から昔の天若集落での生活やダム建設後の話を詳しく聴くことができました。合間には、水没した世木地域の名産である鮎の塩焼きや納豆餅をいただき有意義な時間を過ごすことができました。

また、例年と同様に、水没家屋の上の湖面にあかりを浮かべ、かつての集落を再現しました。今年は、摂南大学エコシビル部、石田ゼミで、あかりの製作から設置、撤収の全般を行いました。今年度はあかりを小型化するなどの挑戦を行いました。本番では光が目立たないなどの課題が残りました。これらの課題を今後に残し来年のあかり設置の計画を行いたいです。



天若のお話し会の様子

淀川まるごと体験会

8月23日(日)淀川点野砂州周辺にてねや川水辺クラブ・河川レンジャー・摂南大学が主催で、開催されました。今年は日程の関係もあり、全体の参加者は60人ほどでしたが、一般の参加者は21人と例年より少なめでした。参加者一人ひとりに、水中歩行体験・虫取り・魚釣り・水難事故体験・Eボート乗船などの体験をしていただき自然と触れ合いながら、防災について考えていただくことができました。また一般参加者だけではなく、スタッフも充実した時間を過ごすことができました。

第6回 幸町公園水辺のつどい

8月29日(土)に、寝屋川市の幸町公園にて行われました。ねや川水辺クラブ主催で、約30人の参加がありました。植物調査では、子どもたちとともに普段何気なくみていた植物の名前の由来について考えたり、葉っぱや花の形をじっくり観察することができました。川では、タモ網を使いカダヤシやオオクチバスなどの外来魚を観察しました。アルファ化米を参加者でつくり防災について考えました。途中で、大雨が降るなどハプニングもありましたが、最後はバーベキューを行い参加者の皆さんと笑顔で締めくくれたと思います。

第12回 日野川水辺フェスティバル

8月30日(日)、京都市伏見区の春日野園にて日野川水辺の会が主催で開催されました。あいにくの雨模様にもかかわらず、約150名もの参加者がありました。参加者はEボート体験や、摂南大学吹奏楽部によるミニコンサート、焼きそばやかき氷などのたくさんの催しを満喫しました。また、最後には花火も打ち上げられ、皆で夏の終わりを惜しみました。



演奏会の様子

第8回 いい川・いい川づくりワークショップin仙台

8月29日(土)・30日(日)に東北工業大学八木山キャンパスにおいて、第8回いい川・いい川づくりワークショップが開催されました。今年は「チーム寝屋川」として、ねや川水辺クラブ、河川レンジャー、摂南大学ゼミ・エコシビル部、寝屋川ユースネット、寝屋川再生ワークショップ、寝屋川市の各団体が連合した総勢150名の中から10名がワークショップに参加しました。2001年から始まった寝屋川市内での水辺の整備や若者の地域への関わりについて発表しました。そして、参加全41団体の中で準グランプリをいただくことができました。また、若者の元気な活動が評価され、森清和賞(*)も受賞しました。ワークショップに初めて参加した高校生や大学生も全国の様々な活動団体の発表を聞いたり交流したりする中で、大きく成長できた2日間でした。
*森清和賞・・・川とふれあう子どもらしい元気あふれた活動・多くの仲間達に共感と希望を与える活動・川と真剣に向いあう勇気とやさしさにあふれた活動に贈られる賞

今後のイベント詳細

第5回 川の恵みを活かすフォーラムのご案内 ー川魚文化再興に向けて(淀川愛好会・秋のイベント)

日時：平成27年10月3日(土) 10:00～16:30

場所：午前の部 京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー新館セミナー室

午後の部 京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー中庭

主催：京の川の恵みを活かす会

プログラム：

第一部 「淀川アユの見聞～淀川水系における天然海産アユの現状と課題」 10:00～13:00(室内)

挨拶：宇治川オープンラボラトリー施設長 中川一

講演：「川魚文化再興に向けて」おばんざい研究会 藤掛進

「濠川におけるアユ遡上構想」河川レンジャー 谷口順彦

「近世日本のアユの漁撈と流通について」京都府立大学文学部 東 昇

各河川団体による報告、まとめ、討論、講評を行う

第二部 川の食味体験会

参加費：参加者は食材の経費を実費で徴収(約2,000円程度の見込み) ただし、飲み物はお茶とソフトドリンクの提供をします。

アルコールの持ち込み可としますので、必要な方はご持参ください。

参加申し込み：参加希望者は氏名、所属団体、第二部参加希望の有無を明記の上、下記宛にお申込みください。

なお、会場と食材準備の都合上、先着 100 名で締め切らせていただきます。

申し込み宛先：京の川の恵みを活かす会事務局 E-mail ikasukai.all@gmail.com

第3回 カヌーでつなぐ「琵琶湖・淀川流域圏」～1,450万人・水のえん～

日時：平成27年11月21日10:00～16:00、22日10:00～16:00、23日9:30～16:00

場所：・21日 笠置町(カヌー広場)～京田辺(近鉄大橋) 22日 京田辺(近鉄大橋)～寝屋川市(点野)

23日 寝屋川市(点野)～大阪市(毛馬桜ノ宮公園)

主催：琵琶湖・淀川流域圏連携交流会

参加費：各日8000円

申し込み宛先：琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 Tel. 072-847-2286 Fax. 072-807-7873 E-mail jimukyoku@bynet.jp

天若湖アートプロジェクトを通じて

大槻 航平

天若湖アートプロジェクトとは桂川の上流部にある日吉ダムで毎年行われるイベントです。僕自身このプロジェクトには1年生のころから学生会議のメンバーの一員として携わっていました。3年目となる今年も実行委員会として会議の段階から参加をしようと思っていました。ですが部長を務めているため、近畿水環境交流会などのイベントとの両立は厳しいと判断し、今年度は部活内で新しく天若湖アートプロジェクト担当と言う代役を立てることにしました。普段は主催者としてイベントを運営しているのですが、参加者としてイベントの運営を見ていると普段見えない所が見えてきました。

一番感じたことは情報伝達不足でした。部員全員に言ったつもりでも伝えきれていない、もしくは部員が意味を理解しきれていないことが多々ありました。このようなことがありながらも、イベントに参加して下さった一般の方々には楽しんでもらえたようでとても良かったです。ですがイベントをより円滑に進めるためには、情報伝達の徹底は必要だと痛感しました。これを踏まえ、今後のイベントをより良いものにしていきたいと思います。

(摂南大学 理工学部都市環境工学科3年生・エコシビル部部長)

お見舞い

今回の関東・東北豪雨災害で被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げます

『亡き友へ』（編集後記にかえて）

『会員の窓28』（70号）で森口雄太君は、ある“気づき”で勉強するうちに、「……。すると、知識がつくと共に、自分の中で変化が起こり始めました。」と述べています。このように“気づき”は、人生をより豊かにする原動力だと思います。この“気づき”に加えて“気配り”のあり方を、普段のさり気ない振る舞いに学ばせてくれた富久ちゃんへの感謝とお別れ。

去る6月16日、本会会員の、わが畏友、そしてよきライバルでもありました〔人生よろづ大学大学院 人生哲学研究科 人間力研究&実践講座教授〕前田富久兄（たった2ヶ月早く生まれただけで兄貴面されていた？ 口惜しいが、誕生日は選べない、変えられない！）が、ALSのため黄泉の国へ旅立ちました。

富久ちゃんは、仕事関係先大学で、しばしば仕事の合間をみて俄“教授”を務めていました。誰にでも親身になって指導する教授は、学生たちからの信望は厚く、愛称“社長”と呼ばれ、学生たちの、これからの長い人生航路の羅針盤をより確かなものにするためのよき範となっていました。多芸多才な社長から薫陶を受け、“how to kiduku & kikubaru”をしっかりと学んだ学生たちは数多いと思います。

彼は、理化学機器販売業を生業とする傍ら、夜を徹しながらも多岐にわたる分野の勉強に勤しむ学徒でもありました。そのような努力が、聡明な天性に加える、あの機知に富む、誰も真似のできない絶妙なtalk & communication力を育んだと思います。

何事にも率先して取り組み、そして器用で、凝り性で、しかも負けず嫌いの“ふくちゃん、いろいろありがとうね。でも、あっちへ行くのが早過ぎッ！”

編集長 相本太刀夫（元摂南大学薬学部教授）

淀川愛好会事務局：〒572-8508寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX : 072-839-9125

HP : <http://www.setsunan.ac.jp/civ/yodoric>

E-mail: ishida@civ.setsunan.ac.jp